

令和7年度 目黒区立東山中学校 学校グランドデザイン

Research / 各種調査等における実態

〔学校の実態〕＊R7/4月現在

・11学級

・生徒数 408名
(帰国子女 64名)

・特別支援教室利用生徒 8名

・日本語指導実施生徒 10名

・教員数 24名
(管理職2、主幹3、指導1、主任6、教諭10、養護1、非常勤1)

〔生徒の実態〕区平均との比較

(1) 区学習状況調査 ＊R6/4月実施

	1年国語			1年数学		
	知・技	態・情・表	主体的	知・技	態・情・表	主体的
学校全体正答率(%)	64.6	65.0	50.2	76.7	63.2	63.9
目標値(%)	61.8	55.9	46.0	67.3	54.1	55.9
目標値との差	2.8	9.1	4.2	9.4	9.1	8.0

	2年国語			2年数学		
	知・技	態・情・表	主体的	知・技	態・情・表	主体的
学校全体正答率(%)	77.5	70.8	55.7	76.4	47.3	60.7
目標値(%)	70.4	58.1	51.0	60.4	40.8	47.9
目標値との差	7.1	12.7	4.7	16.0	6.5	12.8

＊目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した生徒の割合。

(2) 四者評価（関連項目の肯定的評価）

・学校生活への満足度 88.3%

・教育目標の理解 81.9%

・学習内容の理解 87.3%

(3) 進路 ＊R6年度卒業生

【全日制】国公立 54名、私立 65名

【定時制・通信制】6名【その他】2名

(4) 部活動・その他 ＊R7年度開設

・運動部 10

・文化部 7

・有志合唱団

・応援団

〔保護者・地域の実態〕

(1)四者評価（関連項目の肯定的評価）

【保護者】授業改善 85.2%、ICT機器の活用 92.3%、教育目標の設定 84.7%

【地域】学校との連携 80%

(2)PTA・同窓会・地域の特色

PTAや同窓会の活動が盛んで、学校の教育活動に対し協力的な家庭が多い。

また、地域の学校に対する関心も高く、連携・交流を期待している。

校長の経営方針
【基本方針】 学習指導要領、東京都教育ビジョン、めぐる学校教育プランに基づき、学校教育目標の実現に向けて学びの質の向上と生活の質の向上を念頭に置き、未来志向で教育活動を推進する。 (1)「人権尊重と社会貢献の精神」の育成 人権感覚が鋭く、他者と協働して持続可能な社会の創り手を育てる教育を推進する。 (2)「豊かな個性」と「自己調整力」の伸長 次代を切り拓く人間としての資質能力を伸ばすために、自らの可能性を引き出す教育を推進する。

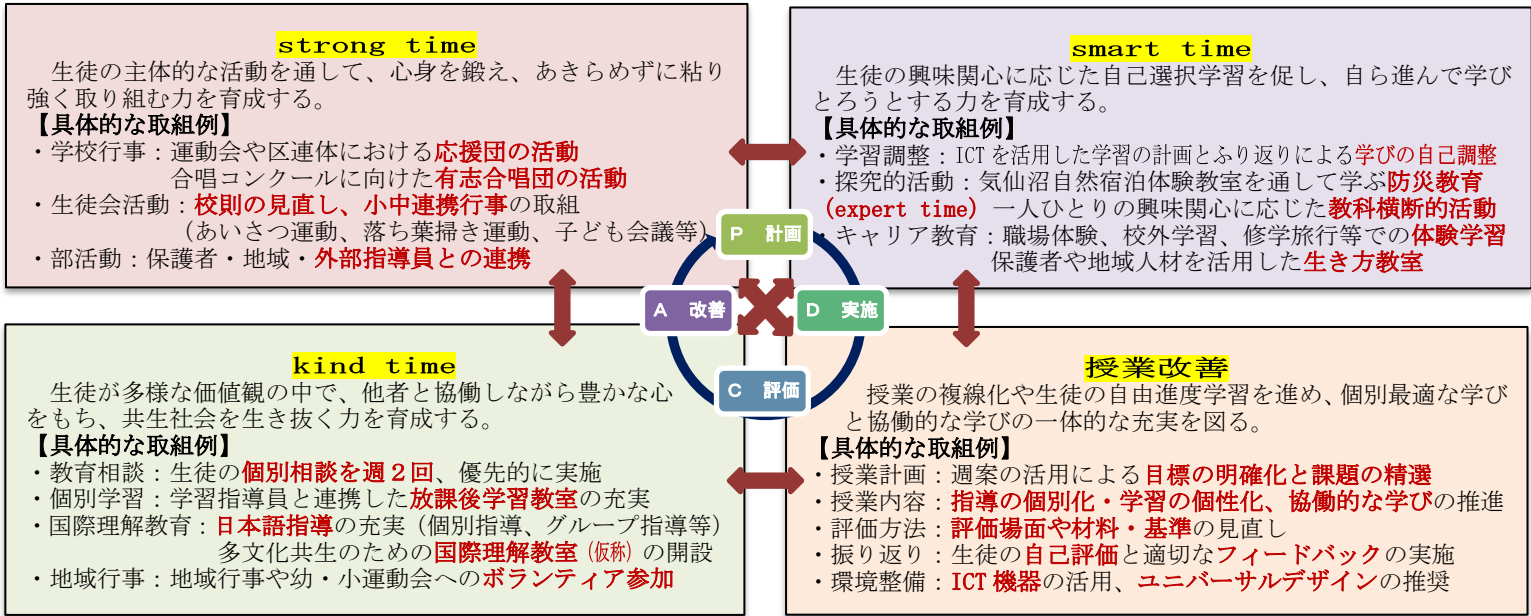
目指す生徒像
【教育目標】 文武両道の精神をふまえ、人間性豊かな生徒を育成する。 1 心身を鍛え 実践する生徒（つよく Be strong） 2 自ら進んで 学びとる生徒（かしこく Be smart） 3 豊かな心を持ち 協力する生徒（あたたかく Be kind） 【目指す生徒像】 未来社会を切り拓くための資質・能力及び他者と協働する力を身に付けた東山中生 1 あきらめずにねばり強く取り組む生徒 2 自ら進んで学びとろうとする生徒 3 多様な価値観の中で他者と協働する生徒

～生徒一人ひとりの自己調整力を高めるための弾力的な教育課程編成～

〔指導の重点〕 教育目標の達成のために	
【学習指導】 生徒が自己調整しながら学習を進めることができるような指導 ①教科指導及び expert time において、探究的な活動を取り入れた自己選択学習を実施 ②smart time を活用して、学習状況を自己管理する取組を実施 ③道徳的価値の自覚について考え、議論する授業を実施 ④放課後・長期休業中・定期考査前に補充的・発展的な学習を実施 ⑤自己肯定感を高めるために、単元テストや検定試験を実施 ⑥A I ドリルを活用した朝学習を実施 ⑦学習指導員・A L T・特別支援員及び学習用情報端末を活用し、指導の個別化・学習の個性化を実施	【生活指導・進路指導・特別活動】 探究的活動や体験学習を通して他者と協働できるような指導 ①東山ブランドに磨きをかけるために、教育活動のすべての場面において探究的な活動や体験学習を実施 ②kind time を活用し生徒理解を深めるために、教育相談的手法を用いた取組を実施 ③自己の生き方について考え、望ましい勤労観・職業観を育てる取組を情報端末等を活用して実施 ④よりよい人間関係の構築、愛校心及び心身の健全育成のために、学校行事、生徒会活動、部活動を実施 ⑤共生社会で求められる資質能力を育てるために、地域行事等に参加しようとする意欲を高める取組を実施

☆ 1 単位 4 5 分授業による 生み出された時間の活用 ☆

時 程 表 (45分授業)	
expert time (自己選択学習の時間)	8：20～ 8：30
学 活	8：30～ 8：35
1 校 時	8：40～ 9：25
2 校 時	9：35～10：20
3 校 時	10：30～11：15
4 校 時	11：25～12：10
給 食	12：10～12：40
昼 休 み	12：40～13：00
5 校 時	13：05～13：50
6 校 時	14：00～14：45
帰りの学活・清掃	14：50～15：15
	14：50～15：00 smart timeの日 は清掃なし
smart time (学習の自己調整の時間)	15：00～15：15 週の終わり
kind time (教育相談、個別学習等の時間)	15：15～15：30
下 校	15：30
strong time (部活動)	15：30～17：30
最 終 下 校	17：30
水曜日の6校時は、expert time（自己選択学習の時間）	
令和7年4月1日版	



〔研究成果の検証法〕					
対象	評価指標	目標値	対象	評価指標	目標値
生徒	区学習状況調査	該当項目の目標値を 8%以上 上回る	教員	授業診断シート	該当項目の肯定的評価 60%以上
	授業診断シート	該当項目の肯定的評価 60%以上		四者評価	該当項目の肯定的評価 90%以上
	四者評価	該当項目の肯定的評価 90%以上	保護者	四者評価	該当項目の肯定的評価 80%以上

目指す教師像
～生徒・保護者・地域から信頼される東山中の教師～ 1 生徒の成長を支えるために、人権を尊重し、褒めると叱るをバランス良く指導する教師 2 ICT機器を活用し、社会の変化に対応した授業を展開する教師 3 探究心と向上心をもって、常に自己の資質・能力を高めようとする教師
研究と修養の充実
～研究と修養は教師の使命～ 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 2 授業の複線化や探究的な活動に重点を置いた学びの研究 3 評価場面や方法を工夫し、学習過程や成果を評価
働き方改革
～教職員の心身の健康維持～ 1 CBT導入による採点及び成績分析の時間短縮 2 配付物及び回収物のデジタル化 3 会議資料のデジタル化による会議数の縮小及び会議時間の短縮 4 学年会等打合せ時間の確保 5 時差勤務、在宅勤務の運用

〔研究開発組織〕	
【研究推進委員会】全体企画・運営 ＊月1回職員会議後に実施 【総務】各担当の進捗確認、調整、各種調査実施・分析、記録等 【各担当】 strong time：学校行事、生徒会活動、部活動等 smart time：学習調整、探究的活動（総合的な学習の時間）、キャリア教育等 expert time：自己選択学習（月～木曜の朝、水曜6校時） kind time：教育相談、個別学習、国際理解教育、地域行事等	
校長 副校長	〔総務〕 ◎研究主任 ○研究推進委員 研究推進委員会 strong time 担当 smart time 担当 expert time 担当 kind time 担当